日立の情報統合を支える基盤製品

「DataStage®/QualityStage™」

～「プロセス統合」と連携した「情報統合」でSOAを強力に支援～

ビジネス戦略を勝利へ導くには、企業内に散在する膨大で多種多様な情報資産を、整合性の取れたデータとして集約し、迅速かつ的確な経営判断に活かせる形で提供する情報統合基盤が必要です。日立が提供する「DataStage/QualityStage（データステージ/クオリティステージ）」は、複数の異なるデータソースから情報をスピーディに集約し、利用者の求めるデータ形式に加工し、そのデータ品質を高いレベルで確保することにより、利用者に価値ある情報をJust-in-Timeで提供するシステムを構築するための基盤製品です。情報統合においてデータを収集、加工し、参照可能な状態とするETL※1処理の開発には多大な工数が必要となると言われています。DataStageは、このETL処理の開発において従来の2～4倍の生産性向上を実現するとともに拡張性・保守性においても優れた効果を発揮しています。DWH※2の構築のみならず、SOA実現のための情報統合、企業合併時のデータマイグレーションなど、幅広いシーンでの活用が進む「DataStage/QualityStage」を、日立は長年の豊富な構築実績とノウハウ、充実したサポート体制で、お客さまにお届けします。

※1 ETL:データの抽出(extract)、変換(transform)、格納(load)といった一連の処理　※2 DWH:Data Warehouse

経営戦略の進化を支える「情報統合」基盤

本社/支社・グループ企業など複数拠点にまたがる情報の統合管理、そしてCRM※3/SCM※4/SFA※5などを活用したビジネスモデルの変革など、近年さまざまなシーンで情報統合の必要性が大きくクローズアップされています。

さらに、複数の業務システムやデータを“サービス”として組み合わせ、新システムをスピーディに構築するSOA※6においても、「プロセス統合」と連携し、利用者に価値ある情報をJust-in-Timeで提供する「情報統合」が不可欠な要素とされています。

日立では、こうした幅広いシーンでの情報統合を実現し、環境変化に追従するDBの進化・拡張を支えるため、ユニバーサル・アプリケーション・プラットフォームCosminexus（コズミネクサス）Version7において、「フェデレーション」「レプリケーション」「ETL」という3つの情報統合基盤を提供しています。その中でも、バッチ処理でレガシー環境や異種プラットフォームから必要な多量のデータを抽出し、エンドユーザーの望む形へと加工・変換・クレンジング（不正データの修正）した後、統合DBへ再格納させるといった用途に最適なのが、ETL製品として世界的にも高い評価を得ているDataStageです。

※3 CRM:Customer Relationship Management
※4 SCM：Supply Chain Management
※5 SFA：Sales Force Automation
※6 SOA:Service Oriented Architecture

ETL製品で国内・外トップクラスのDataStage

DataStageは現在、全世界で3,000社以上、国内でも170社以上の導入実績を誇る、国内外でトップクラスの評価をいただいている製品です。その理由は、GUIによるプログラムレスでのわかりやすいビジュアル開発環境をはじめ、バッチジョブ開発やコード変換、データ抽出・更新といった処理の効率化を図るための豊富な機能により、その効果を多くのユーザーにご理解いただいているからです。

また、データの素性を的確に把握できるメタデータ管理機能や、パラレル機能での大規模データの高速処理など、ETL処理に付加価値をあたえる高機能ETL製品として一層の生産性と信頼性の向上、コスト削減を実現する数々のバリューも備えています。

さらに、世帯名寄せや企業名寄せといったデータクレンジング処理を効率良く実現するQualityStageとDataStageをシームレスに連携させることで、データの統合で発生する情報の不整合やデータ欠落も効果的に解消でき、統合DBの信頼性や、お客さまのビジネスの意志決定を、より高い次元へと高めることが可能です。

正確な情報分析のためのマスターデータの統合

あるグループ企業における情報統合基盤への適用例（図1）をごらんください。これま

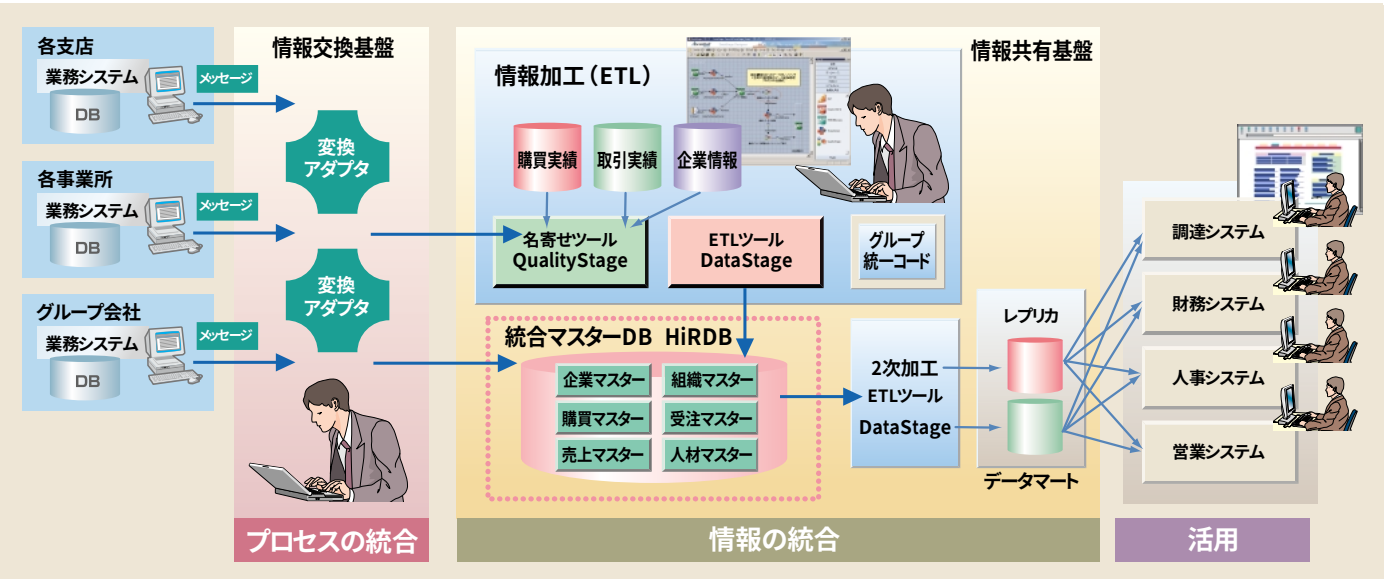

図1 情報統合基盤を利用したシステム例

All Rights Reserved,Copyright ©2006,Hitachi,Ltd.

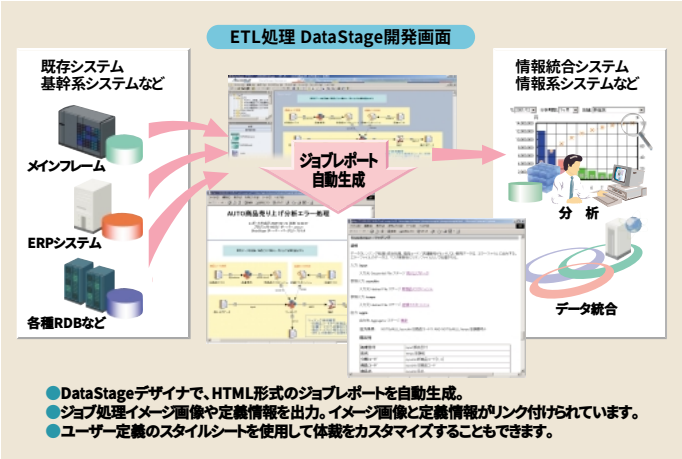

図2 保守性向上のためのジョブレポート自動生成機能

図3 DataStageパラレル機能

で各支店・事業所・グループ会社で個別に利用されていた購買・取引データは、それぞれのシステム別に管理され、グループ内で統一されていませんでした。このため、グループ全体の統合された経営情報を取得するためにはプログラム開発による機械名寄せや手作業などにより、各システムがもつ企業データと帝国データバンクなどから提供される企業情報との突き合わせを行い、マスターコードを付与して統計処理を行っていました。しかしプログラムによる名寄せも精度に限界があり、手作業での名寄せには多大な工数がかかるため、最新の情報とのタイムラグが発生し、経営判断の遅延を起こすケースが少なくありませんでした。

そこで新たに構築した情報共有基盤にDataStage/QualityStageを適用し、各拠点から送られてくるデータの加工・付け合わせ・名寄せ・マスターコード付与などの業務をGUIベースで作成、バッチ処理で自動化します。これにより、各業務担当者に公開される統合マスターDBを迅速かつ効率よく構築でき、データ更新の期間短縮を実現できるため、グループとしての経営判断もスピーディに行えるようになります。このように、DataStage/ QualityStageによって企業内に散在する各種データを最適な状態に統合し、付加価値の高いデータとして活用することができるのです。

進化を続ける DataStage Version7

■ジョブレポート自動生成機能のサポート

DataStageではジョブ変更時や拡張時の開発効率を向上させるため、従来からDataStageの変換処理をメタデータとしてGUIで管理する機能をサポートしています。最新版であるVersion7ではこの機能に加えて、サーバジョブ、パラレルジョブ、共用コンテナのジョブレポートをHTML形式で自動生成する新機能を提供しています。SOAの本格化などによって統合対象のデータソースが多様化しても、保守用ドキュメントとしてのジョブ設定書作成／修正の工数を大幅に削減することが可能となり、システム管理者の負担を一段と軽減することができます。

■大規模データを高速処理できるパラレル機能

増え続ける膨大なデータに対応するため、データ処理をデータのパーティショニングやパイプライン処理によってパラレル実行し、大規模データを扱うジョブの高速化を実現する機能です。DataStageのビジュアルな開発環境を利用して、超大規模DWH構築や、全社規模のデータ統合を実現します。日立では、スケーラブルデータベースHiRDBのパラレル機能と組み合わせ、パラレル処理の相乗効果を実現するHiRDBオペレータを独自に開発・提供しています。パラレル機能を利用することで、CPUやマシンの増加に比例した性能向上を実現します。

開発パートナーとしての日立のアドバンテージ

日立はDataStageの日本語版開発に早くから参画するとともに、日本のETL製品市場の開拓に力を注いできました。社内に数多くのエンジニアやコンサルタントを配置し、日本市場で安心してご利用いただけるための品質確保や、高度な問題解決能力を誇る充実したコンサル・サポート体制を整備しております。DataStageを適用したシステムにおいて構築、運用、保守に関するお悩みを、豊富な実績とノウハウ、技術力を駆使してスピーディに解決することができます。

日立はDataStage/QualityStageのポテンシャルを最大限に引き出しながら、お客さまのビジネスを“成功のステージ”へと導いてまいります。

お求めやすい日立オリジナルの「DataStage Common Edition」を提供

日立では、中規模システムや部門サーバでの活用を想定したDataStageの普及版として、「DataStage Common Edition」を提供します。これは世界で日立しか提供できない特別エディションです。この機会に、DataStageの使いやすさと機能性を、ぜひお試しください。システム条件などの詳しい情報については、DataStageのホームページをごらんください。

お問い合わせ先

HMCC（日立オープンミドルウェア問い合わせセンター）
0120-55-0504 利用時間9:00～12:00、13:00～17:00（土・日・祝日・弊社休日を除く）

■情報提供サービス
http://www.hitachi.co.jp/soft/datastage/

All Rights Reserved,Copyright ©2006,Hitachi,Ltd.